



# 小さき群

救主降世2013年9月号 第87号

2013年度北海道教区宣教目標

『確かに未来はある あなたの希望が断たれることはない』

箴言23章18節

教会HP <http://www.obihiro-seikokai.com>

## 信じて待とう 子どもの歩み

帯広聖公会幼稚園父母の会会長  
脇 真治

妻の故郷である帯広市を、私自身の第二の故郷にしようと思ってきたのが2008年3月。翌年、長女が帯広聖公会幼稚園に年中で入園、その翌年2010年、次女が年少から入園し、同じ年に私が父母の会会長の任を引き受けることとなりました。未来を担う子どもたちを応援し続けたいという想いから、不登校・登校拒否を考える会である「はるにれの会」の事務局長としても活動をしています。去る、8月3日・4日「第18回登校拒否・不登校問題全国をつどい in 北海道」が催され、私は実行委員として支援・参加をさせていただきました。

全国をつどいには、全国各地から470名を超える方々が十勝川温泉ホテル大平原に集まりました。初日は、帯広カムイトウウポポ保存会の皆さんによるアイヌ民族に伝わる歌と踊りのオープニングセレモニーで幕を開けました。そして、音更町長の寺山さんや全日本教職員組合の中村さんなどのご挨拶の後、臨床心理士の横湯園子先生による記念講演が行われ、横湯先生は、どう親や地域社会が子どもに寄りそえるか、日本の教育で起きていることを国際的な視点からお話ししてくださいました。そして、「未来は現在の中にある」というタイトルどおり、あの事があったから現在の自分がある、今だれかの未来のために自分ができることは何か、ということ、日本が貧しい時代に母親を一本のペニシリンが救ってくれたご自身の体験談を交えて語ってくれました。

その後、つどい参加者は全員、2つの講座、12の分科会のほか、遊びの広場や憩いの広場など、自由に選んで各部屋へと分かれてきました。私は村上公平先生の講座での司会を務めさせていただきました。村上先生は現在、NPO法人教育相談お

さかの相談員で31年間にもわたり登校拒否・不登校問題に取り組んでいる方です。「家庭で」というタイトルの講座の中で、童話「北風と太陽」のお話をされて、子どもは誰でも立ち直る力を持っている、それを信じるのが大切だ、とお話ししてくださいました。

2日目には、「さまざまな進路・自立に向かって」という分科会に参加しました。この分科会を選んだ方が25名ほどいたので、さらに2つのグループに分かれて語りました。その分科会は、お子さんが不登校・登校拒否で苦しんでいる、あるいは苦しんだ経験があるという親御さんや、仕事をできずに家に引きこもっている成人の方や、辛い経験を乗り越えた若者のほか、高校の先生や全国各地の親の会・相談員の方など様々な人たちが、それぞれの人生に耳を傾けるとても貴重な場となりました。何か結論を出さなければならない会ではないので、自立ってそもそも何だろうとか、もし今養ってくれている親がいなくなったらどうなるんだろう、など、それぞれの参加者が思い思いに発言できる心地よい場でした。当事者同士であるから、話せたり共感できたりすることがあります。はじめはうつむいてばかりだった当事者の方が、最後には明るく朗らかな顔に変わっていたことがとても印象的で、こういうことが「全国をつどい」の魅力の一つであると確信いたしました。来年は滋賀県で行われる予定です。

心が洗われ身が引き締まった有意義な2日間でした。おそらく一生忘れることは無いでしょう。学校に通える幸せ、学べる幸せ、話せる幸せ、聞こえる幸せ、見える幸せ、働ける幸せ、生きている幸せ、愛されている幸せ、をより多くの青少年たちが感じてくれるようになってほしいと願っています。

急な原稿依頼にも快くお受け頂いた協会長さんに感謝します。熱い想いをとても感じてくる内容ですね。ありがとうございました。

## ◎“TPP問題”の講演会がありました。

例年8月15日に“とかちキリスト者平和の会”主催の平和講演会が開催されています。今年は“TPPと平和・経済・農業”のテーマで、講師が札幌聖ミカエル教会の信徒でもある三島徳三さんでした。同氏は農業経済を専門とする北大名誉教授ですが、農業面からだけでなく医療や様々な分野での問題点を分かりやすくお話してくださいました。

TPPに関して私たちはあまりにも知らないことだらけだと今更のように気づきました。関税とは、国内産業の保護や財政上の理由から輸入品に課せられる税金であって、国によってその対象となるものは違ってきます。それがTPPにおいては参加国の中で関税を撤廃しようという流れに乗せられようとしています。かつて日本は原材料を輸入して加工輸出することで経済を成長させてきました。しかし今日では大企業は生産拠点を海外に移すことで、中小企業を含めた国内技術力の低下をもたらすだけでなく、海外拠点で得た利益が企業の収益となるだけで一般国民の生活の豊かさの実感につながらないという結果になっています。

交渉に参加しても国益に反するときは離脱をすればよいと、政府・与党関係者は言っています。しかし、交渉過程は発効後4年間は公表してはならないと言う規定があり、事実上離脱することは国際信義上からも不可能と思います。もっとも日本はかつて“国際連盟”を脱退してますけどね(当時の日本首席全権は松岡洋右で安倍総理の遠戚ですが)。

TPP締結による結果予想

メリット

- ・ 関税撤廃で輸出企業が有利に
- ・ 米や肉などの価格が安くなる
- ・ アメリカとの関係が緊密になる(隷属?)

デメリット

- ・ 食糧自給率の低下で食糧危機の可能性
- ・ 公的医療制度の崩壊
- ・ 国内農家が圧迫される
- ・ 食料品の規制緩和により食の安全が不安
- ・ 郵貯・簡保が外資に買収される危険性

TPPにより不利益を被る分野に競争力を付けるため施策がISD条項(相手国の制度や法律により自由な企業活動が妨げられた場合、国際的紛争調停機関に訴えることが出来る)により外国から訴えられることも考えられます。

農業は過保護だからこの際競争力をつければよいとの考えもあるようですが、国の過去のノウ政を考えると責任転嫁と思います。

さまざまな不安因子がある中でなおも参加締結を強行するにはそれらを上回るメリットがあるのでしょうか。その影がちらついています。

## 15. エステル

王はどの女にもましてエステルを愛し、エステルは娘たちの中で王の厚意と愛に最も恵まれることとなった。王は彼女の頭に王妃の冠を置きワシュティに代わる王妃とした。

(エステル記2章17節)

エステル記は身寄りのないユダヤ娘がペルシャの王妃となり、ナチスと同じようなユダヤ人殲滅の計画から多くのユダヤ人を救った話です。王や側近には自分の出自を隠していましたが、王には寵愛されていたからどのような事態になっても自分だけは宮廷暮らしを楽しめたかもしれませんが、自分だけの安逸を考えず、知恵と勇気を振り絞ってユダヤ民族を救ったのです。この出来事を記念して今でもイスラエルの祭日としてアダル(第12の月)の14日をプリム祭としています。

エステルという名前ですが、これはペルシャ語で「星」という意味です。コンピュータで掛け算のときには「\*」を使いますが、これは「アスタリスク」といいます。星形という意味です。英語の「スター」の語もこれから生まれたものです。

王妃エステルのユダヤ人の名前は「ハダサ」といいました。「ハダサ」は天人花(ゲンゴウ)という植物です。フトモモ科の常緑低木で、沖縄にも自生します。夏、淡紅色の5弁の花を開きます。果実は楕円形紫色で、食用になります。ですが、天人花という名前のとおり、花が有名です。広い範囲に芳香を漂わせるのです。

化学で「エステル」といえば、酸とアルコールが結合したものの総称です。この中で、低分子のものは芳香をもつ液体で、人工の果実エッセンスとして用いられます。

エステルも香しい王妃だったのかしら。(『聖書に見られる理科のことは』文芸社刊より)

## 今後予定される行事

- ・ 9/4-5 教区婦人会総会(札幌キリスト教会)
- ・ 9/23 帯広聖公会バザー
- ・ 9/29 秋季墓地礼拝
- ・ 10/11~13 教区礼拝研修会(当教会)
- ・ 11/22-23 第72(定期)教区会
- ・ 12/22 美唄・岩見沢合同礼拝
- ・ 1/19 後期主教巡回日

## 8月の教会委員会の報告・決議

1. 「いっしょに歩こう！プロジェクト」の終了によるも、「じゃがいも支援」は必要に応じて継続。

## ◎ハレルヤ農園便り No. 5

9月ともなりハレルヤ農園は実りの季節を迎えています！！ジャガイモ、トウキビ、枝豆、モロッコ豆、カボチャ、トマト、ナス、ピーマン等々収穫真っ盛りです。それに、もうすぐメロンや西瓜も成熟して来、その収穫が楽しみです。神様に感謝！！又、8月初旬に飯塚さんご夫妻が農園の見学がてら草刈り奉仕で来園され、その時は収穫物もありとても楽しまれた様です。(見学者歓迎します)

ハレルヤ農園耕作者兼管理人 高橋



スイカもメロンもとても立派に成長。これは沢山実りつつある中のごく一部です。

秋の水は澄んでゆく。その水が  
堰より落ちる様は当に水の秋  
にふさわしい

水の秋

羽州

堰せきより落つる

ふくらみて

季節の風

## 礼拝研修会のお知らせ

日時：10月11日(金)17:30～13日(日)

礼拝・昼食後解散

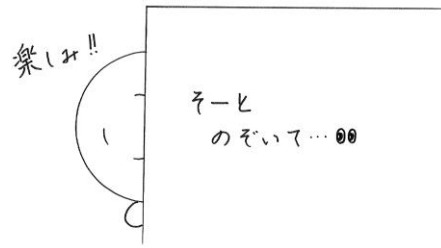
会場：帯広聖公会

宿泊：とかちガーデンズホテル

講師：菊地泰子氏（東京聖アンデレ教会カガニスト）、  
小貫雅夫司祭（北海道教区退職聖職）

難しい研修をする訳ではありません。礼拝を様々な面から楽しく勉強しませんか。幸いにも電子オルガンが寄贈された、この機会です。是非とも、ご参加下さい。詳細は教会に。

隠れて見えない  
大切な物も…



『彼らが見るには見るが、認めず、聞くには聞くが、理解できず、こうして、立ち帰って赦されることがない』マルコ 4:12

## 教会バザーのお知らせ

・開催日：9月23日(月・祝) 10:00～13:30

・会場：帯広聖公会幼稚園

・目的：収益の一部を『パレスチナ・ガザ地区の子ども達』(生活・教育・医療の働きの為)

ガザ地区は、国連からの支援物資も途絶えがちな地区です。日本聖公会は、政治的・宗教的信条に関わらず地域の病院やコミュニティを応援しています。

お願い：ご家庭で眠っている衣類、家庭用品、日用雑貨などをご寄贈下さい。

集める期間と場所:

8月12日(月)～9月14日(土)

8:30～15:00

帯広聖公会の玄関内に入れて下さい

※聖公会幼稚園の改築に伴い、来年より2年間教会バザーをお休みします。

◎教会のホームページを更新しました。

<http://www.obihiro-seikokai.com>

## 編集後記

次期の駐日アメリカ大使にキャロライン・ケネディ氏が起用されるとの話があります。同氏はケネディ元大統領の子女であることは周知です。父親のJFケネディ氏が大統領に就任した当時、日本人記者団の質問に「尊敬する日本人は上杉鷹山である」といったそうです。しかし日本人記者団の誰一人その名を知らなかった人でした。でもケネディ元大統領は既に知っていました。それは、内村鑑三の『代表的日本人』の中で紹介されていたからで、同書は英語で刊行されていた事も理由かもしれません。

その“上杉鷹山”ですが、相次ぐ減封等もあり完全破綻寸前になった米沢藩を立ち直らせた中興の祖であり、かつ江戸時代では考えられもしないとても民主的な考えを持ち、実践した人です。武士や農民に夫々「自助」「互助」を求めています。その思想は次に現れています。

17歳で米沢藩の藩主となり家督を継いだ際の歌

『受次ぎて国の司の身となれば忘るまじきは民の父母』、

さらに次代藩主に家督を譲った際に贈った3か条

『伝国の辞』。

- ・ 国家は、先祖より子孫へ伝え候国家にして、我私すべきものにはこれなく候
- ・ 人民は国家に属したる人民にして、我私すべきものにはこれなく候
- ・ 国家人民の為に立たる君にて、君の為に立たる国家人民にはこれなく候

何という言葉でしょう。今の為政者にこれが理解出来ますか？

更に、我が国で最も古く公娼制度の廃止にも取り組んだ人です。寛政7年（1795年）公娼廃止の法令を出しました。公娼を廃止すれば欲情のはけ口がなくなり、もっと凶悪な方法で社会の純潔が脅かされるという反論もあったのですが、鷹山は「欲情が公娼によって、しずめられるならば、公娼はいくらあっても足りない。」とし、廃止しても何の不都合も生じなかったといいます。

従軍慰安婦を肯定する首長がいますがこれをどう考えるのでしょうか。